

先生や友との語らいなどの 「人生の余白」にこそ、未来の種がある

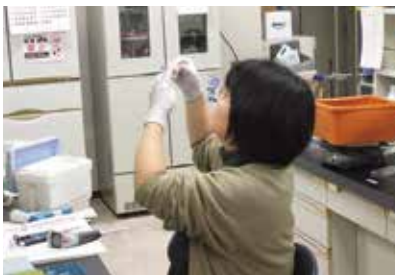
笹尾亜子 熊本大学大学院生命科学研究部助教

医学系
(法医学)

世界で初の発見かも！ このワクワク感は毎回新鮮

研究室で実験を行うなかで「このデータを見るのは、自分が世界で初めてかもしれない！」というワクワクとした気持ちがなによりも新鮮で、もう少しこの世界で過ごしたいと大学院への進学を決めました。「薬剤師をしながら研究に携わっていただけたいな」とぼんやりとですが就職を考えていた時期に、今は亡き恩師に「君は研究が好きだし、そのための勉強は一生懸命にやるから、法医学分野に行ってみてはどうか」と言われ、悩みに悩んで現職につきました。進路については、計画的に決めてこなかったというのが実際のところですが、敬愛する先生方に恵まれたことが、今の自分につながっているのだなと実感しています。

薬学出身ということもあり、法医学のなかでも『法医中毒学』を専門にしています。解剖に付される方の死因に、薬物の影響がなかったかどうか、その薬物を調べる手段として機器分析ではなく、妊娠検査薬のような免疫学的検出法をできるだけ簡単に素早く準備する方法を模索しています。



実験しているときが一番幸せ！

夫や家族の協力で 仕事と子育てを両立

子どもがまだ小さいので、仕事はほぼ平日のみ。休日はじっくりと家族との時間を楽しんでいます。夫が積極的に家事をこなしてくれますし、特に料理は私よりずっと上手なのでとても助かっています！また熊本在住の叔母や近所に住む両親が手助けしてくれることも、仕事を持ちながらの子育てにおいては大変助かっています。

“無駄な時間”はない

学生のみなさんに伝えたいのは、「人生の余白こそを楽しんで」ということ。特に若くて時間がある頃は、先生や先輩、後輩、友達との集まりや飲み会を「無駄な時間」と切り捨てるのではなく、積極的に参加してみることをお勧めします。私自身を振り返っても、無駄に思える「人生の余白」の時間にこそ、自分を育てる“種”のようなものがたくさんあったように思います。ぜひみなさんもすべての出来事を前向きに楽しんでみてください。



男児二人のランチに毎日てんでこ舞いです



Ako SASAO

薬学部
修士課程
大学教員

大学時代に
一生のモノ…
友達や仕事を見つめました

One day

5:45	起床 家事、家族の準備
8:30	子ども達を保育園へ
9:00	大学へ
	授業・研究指導など
18:00	帰宅後夕食作り
19:30	夕食、入浴
	夫帰宅、寝かしつけ、その他家事
22:30	就寝

◎座右の銘

すべての物事は偶然起こる
のではなく、必然として
起っている

profile

ささおあこ / 1996年熊本大学大学院薬学研究科博士前期課程修了、同年4月から法医学分野の助手(助教)として勤務。2008年に医学博士の学位取得、同年結婚。2009年に長男、2012年に次男を出産し現在子育てに奮闘中。法医学の中では法医中毒学を専門にしている。教育、研究以外の業務として法医解剖事例の薬物分析など鑑定補助を務める。薬物の簡便なスクリーニング法の構築や、薬物の侵襲による生体マーカーの検索などを研究テーマとして取り組んでいる。



アンケート
より

Q.「女性」研究者より「男性」研究者の方が有利だ(優遇される)と思いますか？
思う 33% 思わない 67%